

(様式第10)

関病発第19X03号
令和元年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 関西医科大学
理事長 山下 敏夫

(印)

関西医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号
氏 名	学校法人 関西医科大学 理事長 山下 敏夫

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

関西医科大学附属病院

3 所在の場所

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号	電話(072) 804-0101
---------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科 ② 消化器内科 ③ 循環器内科 ④ 腎臓内科	
5 神経内科 ⑥ 血液内科 ⑦ 内分泌内科 ⑧ 代謝内科	
⑨ 感染症内科 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ⑪ リウマチ科	
診療実績	
・アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科で診療している。	
・神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科 ② 消化器外科 ③ 乳腺外科 4 心臓外科 ⑤ 血管外科 ⑥ 心臓血管外科 7 内分泌外科 ⑧ 小児外科	
診療実績 内分泌外科の内容は、耳鼻咽喉科、泌尿器科で診療している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科 ② 小児科 ③ 整形外科 ④ 脳神経外科 ⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科 ⑦ 産婦人科 8 産科 9 婦人科 ⑩ 眼科 ⑪ 耳鼻咽喉科
⑫ 放射線科 13 放射線診断科 14 放射線治療科 ⑮ 麻酔科 ⑯ 救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科 2 矯正歯科 ③ 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 血液・腫瘍内科 2 肝臓内科 3 心療内科 4 糖尿病内科 5 肝臓外科
6 胆のう外科 7 膵臓外科 8 頭頸部外科 9 形成外科 10 リハビリテーション科
11 病理診断科 12 臨床検査科 13 脳神経内科 14 15
16 17 18 19 20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	751床	751床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	365 人	143.0 人	404.9 人	看護補助者	56 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	4 人	1.0 人	4.5 人	理学療法士	24 人	臨床検査技師	71 人
薬剤師	60 人	3.0 人	60.6 人	作業療法士	7 人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	8 人	その他	人
助産師	34 人	2.0 人	35.4 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	825 人	38.0 人	853.5 人	臨床工学士	21 人	医療社会事業従事者	10 人
准看護師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	28 人
歯科衛生士	8 人	1 人	9 人	歯科技工士	人	事 務 職 員	166 人
管理栄養士	6 人	6 人	8 人	診療放射線技師	41 人	その他の職員	人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	23 人	眼科専門医	11 人
外科専門医	38 人	耳鼻咽喉科専門医	11 人
精神科専門医	2 人	放射線科専門医	14 人
小児科専門医	16 人	脳神経外科専門医	6 人
皮膚科専門医	6 人	整形外科専門医	16 人
泌尿器科専門医	10 人	麻酔科専門医	15 人
産婦人科専門医	11 人	救急科専門医	10 人
		合 計	189 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (澤田 敏) 任命年月日 平成25年4月1日

<p>・医療安全管理対策委員会委員長 期間：平成25年4月1日から平成29年8月31日まで</p>

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	671.1人	0.7人	671.8人
1日当たり平均外来患者数	1,439.5人	22.2人	1,461.8人
1日当たり平均調剤数	987.6剤		
必要医師数	156人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	23人		
必要(准)看護師数	385人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	891.70 m ²	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)耐火建物	病床数	53床	心電計	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			人工呼吸装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	心細動除去装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			その他の救急蘇生装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	ペースメーカー	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積	151.50 m ²	病床数	14床		
	[移動式の場合] 台数	台	病床数	床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積	53.00 m ²				
	[共用室の場合] 共用する室名	病棟業務課				
化学検査室	405.30 m ²	〃	(主な設備)	AU-5800、XE-2100、アーキテクト、アテリカ、CS-5100		
細菌検査室	112.90 m ²	〃	(主な設備)	安全キャビネット、バクテアラート3D、BD7エニックス		
病理検査室	299.90 m ²	〃	(主な設備)	カセット印字機、スライト印字機、パラフィン浸透機、免疫染色機		
病理解剖室	118.90 m ²	〃	(主な設備)	パラフィン浸透機、包理センター、ドラフトチャンパー		
研究室	8,193.84 m ²	〃	(主な設備)	顕微鏡、冷却遠心機、CO2インキュベーター		
講義室	363.40 m ²	〃	室数	2室	収容定員	210人
図書室	1,135.16 m ²	〃	室数	1室	蔵書数	52,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	80.6%	逆紹介率	63.5%
算出根拠	A：紹介患者の数	20,407人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,365人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,626人	
	D：初診の患者の数	27,350人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤本 良知	枚方市医師会 会長	○	地域医療に関する学識経験者	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
森田 眞照	市立ひらかた病院 病院長		病院機能に関する学識経験者	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
永井 仁美	富田林保健所 所長		公衆衛生に関する学識経験者	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
吉野 敬昌	枚方信用金庫 理事長		医療を受ける側の代表者	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
谷川 昇	関西医科大学医学部 放射線科学講座教授		医療に関する学識経験者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	1
薦 幸治	関西医科大学 臨床病理学講座教授		臨床病理に関する学識経験者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	1
				<input type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
公表の方法	
本学ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 本手術は、2017年7月11日 先進医療Aに告知された術式であり、現在早期子宮体がんに対して保険診療として行っている腹腔鏡下子宮体がん根治術に腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術を追加するものである。この傍大動脈リンパ節郭清術は、現在保険診療として開腹術で行っている傍大動脈リンパ節郭清と同様の方法を腹腔鏡下で行うものである。具体的には、カメラを下腹部正中から上腹部の方向に向け、後腹膜を切開し、腹膜を腹壁側に吊り上げ又は排圧し空間を確保し、腹大動脈より下腸間膜動脈・腎動脈を確認した上で、腎動脈以下の傍大動脈リンパ節郭清術を行う。			
医療技術名	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 根治的子宮癌手術は、比較的早期の子宮癌に対する最も一般的な治療法であるが、手術的には他の開放手術に比べて出血量が多く、また侵襲性の高い術式であった。1990年頃に腹腔鏡下手術の当該術式への適応が模索され、開腹手術に比し出血量が少ないこと、術後疼痛が軽微であることが多くの利点が提唱されてきたが、2次元視野での難易度の高い術式あることは否めない。手術支援ロボットであるda vinciは三次元視野下での手術操作を可能とするとともに手術野に挿入された鉗子の先端部が広い自由度を保持した関節機能を有する事により小骨盤腔という極めて狭小な手術野での鉗子先端部の自由な可動域を得ることにより、従来は難しいされた鉗子操作を容易に行えることが可能となり、気腹圧による静脈出血の制御という腹腔鏡下手術の利点と手術操作の可動域の拡大を兼ね備えた画期的手術手技となり得ることが明らかになってきた。加えるに10倍の拡大視野下での手術操作により、神経、血管等の確認を容易とし、確実な尿管の剥離、より確実な子宮動脈の剥離結紮を可能にするなど従来の開腹手術では期待できなかった多くの利点がある手術である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	11	56	ベーチェット病	111
2	筋萎縮性側索硬化症	21	57	特発性拡張型心筋症	51
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	47
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	38	60	再生不良性貧血	44
6	パーキンソン病	400	61	自己免疫性溶血性貧血	12
7	大脳皮質基底核変性症	13	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	282
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	10	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	158	66	IgA腎症	111
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	49
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	47	68	黄色靱帯骨化症	54
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	35	69	後縦靱帯骨化症	168
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	83
17	多系統萎縮症	29	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	76	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	41	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	9
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	37	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	221
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	9
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	5
34	神経線維腫症	46	89	リンパ脈管腫症	3
35	天疱瘡	23	90	網膜色素変性症	105
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	7	93	原発性胆汁性肝硬変	107
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	18
40	高安動脈炎	5	95	自己免疫性肝炎	108
41	巨細胞性動脈炎	7	96	クローン病	131
42	結節性多発動脈炎	18	97	潰瘍性大腸炎	269
43	顕微鏡的多発血管炎	23	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	1
46	悪性関節リウマチ	12	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	パージャール病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	300	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	133	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	88	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	50	107	全身型若年性特発性関節炎	5
53	シェーグレン症候群	250	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	20	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	10	110	ブラウ症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	5	161	家族性良性慢性天疱瘡	2
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	13	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	14	167	マルファン症候群	7
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	1
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	3
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	2	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	9	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	5
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソス症候群	0
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	5
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	6	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	15

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	31	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	6	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	4	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	7	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	5
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	7	271	強直性脊椎炎	20
224	紫斑病性腎炎	19	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4	274	骨形成不全症	4
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	5	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	4
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	24
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	3
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	8
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	39
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	24
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	145

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料	・ハイリスク分娩管理加算
・超急性期脳卒中加算	・総合評価加算
・診療録管理体制加算1	・呼吸ケアチーム加算
・医師事務作業補助体制加算1	・後発医薬品使用体制加算1
・急性期看護補助体制加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・看護職員夜間配置加算	・データ提出加算2
・療養環境加算	・入退院支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・認知症ケア加算2
・無菌治療室管理加算1	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料1
・緩和ケア診療加算	・救命救急入院料4
・栄養サポートチーム加算	・特定集中治療室管理料2
・医療安全対策加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・感染防止対策加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・患者サポート体制充実加算	・小児入院医療管理料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
糖尿病合併症管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
がん性疼痛緩和指導管理料	検体検査管理加算(I)
がん患者指導管理料イ	検体検査管理加算(IV)
がん患者指導管理料ロ	国際標準検査管理加算
外来緩和ケア管理料	遺伝カウンセリング加算
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	胎児心エコー法
糖尿病透析予防指導管理料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	ヘッドアップティルト試験
外来放射線照射診療料	長期継続頭蓋内脳波検査
ニコチン依存症管理料	脳波検査判断料1
療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	神経学的検査
がん治療連携計画策定料	補聴器適合検査
排尿自立指導料	ロービジョン検査判断料
肝炎インターフェロン治療計画料	コンタクトレンズ検査料1
薬剤管理指導料	内服・点滴誘発試験
地域連携診療計画加算	CT透視下気管支鏡検査加算
医療機器安全管理料1	画像診断管理加算3
医療機器安全管理料2	ポジトロン断層撮影
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	CT撮影及びMRI撮影
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	冠動脈CT撮影加算
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	外傷全身CT加算
遺伝学的検査	心臓MRI撮影加算
骨髄微小残存病変測定	乳房MRI撮影加算
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	頭部MRI撮影加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
外来化学療法加算1	後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
無菌製剤処理料	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
がん患者リハビリテーション料	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
歯科口腔リハビリテーション料2	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
認知療法・認知行動療法1	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	網膜再建術
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	人工中耳植込術
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
レーザー機器加算	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
硬膜外自家血注入	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
エタノールの局所注入(甲状腺)	乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
人工腎臓	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
導入期加算1	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	長冠縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)等
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	胸腔鏡下弁形成術
CAD/CAM冠	経カテーテル大動脈弁置換術
皮膚移植術(死体)	胸腔鏡下弁置換術
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	経皮的中隔心筋焼灼術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	胎児胸腔・羊水腔シャント術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	輸血管管理料 I
体外衝撃波胆石破碎術	輸血適正使用加算
腹腔鏡下肝切除術	自己生体組織接着剤作成術
生体部分肝移植術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
体外衝撃波膵石破碎術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	麻酔管理料(I)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	麻酔管理料(II)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	放射線治療専任加算
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	外来放射線治療加算
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	1回線量増加加算
同種死体腎移植術	強度変調放射線治療(IMRT)
生体腎移植術	画像誘導放射線治療(IGRT)
膀胱水圧拡張術	体外照射呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	定位放射線治療
人工尿道括約筋植込・置換術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	画像誘導密封小線源治療加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	保険医療機関間の連携による病理診断
腹腔鏡下仙骨腔固定術	病理診断管理加算2

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高圧処理技術を用いた巨大色素性母斑治療～不活化機序解明と生着率向上	森本尚樹	形成外科学	3,250,000	補委	日本学術振興会 科研費
心疾患におけるnon-canonical Wntシグナルの病態生理学的意義の解明	塩島一郎	内科学第二	5,850,000	補委	日本学術振興会 科研費
口輪筋と顔面表情筋群の複合的メカニズムの解明と正常な表情獲得のための基盤の検討	益岡弘	形成外科学	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費
サイトカイン遺伝子の一塩基多型解析とEVを用いた難治性ITPの早期診断法の開発	野村昌作	内科学第一	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球ペルオキシダーゼ抗体の存在から難治性好酸球性気道炎症の新たな治療戦略を探る	小林良樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
麻酔-ECT時間がけいれん発作の質および臨床的有効性・忍容性に及ぼす影響について	奥川学	精神神経科学	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸管免疫に影響を与える腸内細菌叢に着目した微小変化型ネフローゼ症候群の病因解明	辻章志	小児科学	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
自己炎症的機序を端緒とした肉芽腫形成の分子機構解明	神戸直智	皮膚科学	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
セマフォリン4Aが移植後免疫応答に及ぼす影響の解明と新規急性GVHD制御法の開発	佐竹敦志	内科学第一	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
網羅的遺伝子解析による大動脈疾患へのプレジジョンメディシンの創出	岡田隆之	心臓血管外科学	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症病態における血小板数減少と細胞死のmicroRNA網羅的解析による機序解明	竹下淳	麻酔科学	2,470,000	補委	日本学術振興会 科研費
Aug+A12:A16mented realityを利用した追体験型内視鏡手術教育システムの開発	松田公志	腎泌尿器外科学	2,470,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
12件

酸素・エネルギー代謝解析によるHIF-1を機軸とした子宮内膜炎症応答の解明	都築朋子	産科学・婦人科学	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球性気道炎症における選択的アセチルコリン受容体の機序解明と新しい治療薬の開発	神田晃	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
Tリンパ球分画接種による老人性難聴の予防法および予防機序の解明	岩井大	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
薬剤関連顎骨壊死の発症原因解明と発症予防法確立に向けた多施設共同前向き研究	兒島由佳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
医療面接における共感場面の社会的・生理的特徴からの客観的解明	阿部哲也	心療内科学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
都市部貧困がもたらす肥満児予防対策の検討	高屋淳二	小児科学	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
高精度がん放射線治療の確立に向けたWeb教育システム開発	中村聡明	放射線科学	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
自己免疫膵炎の免疫病態と線維化における自然免疫の関与に関する研究	岡崎和一	内科学第三	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
腎嚢胞形成を促進するシグナル伝達機構の分子遺伝学的研究	塚口裕康	内科学第二	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
骨髄腫最適化治療に向けたIMiDsと抗体医薬の免疫賦活機序の解明	伊藤量基	内科学第一	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
ナノバブル生成器の開発:バブル投与下超音波照射によるソノポレーション効果での検証	狩谷秀治	放射線科学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
悪性腫瘍に対する2種類の同位元素を用いた新しい経カテーテル的放射線塞栓療法の開発	谷川昇	放射線科学	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
増殖型遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いた神経内分泌腫瘍に対する新規治療の開発	石崎守彦	外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

ウイルスの関与に着目した胸腺上皮性腫瘍発症メカニズムに関する探索的研究	村川知弘	呼吸器外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
microRNAによる妊娠高血圧症候群の病態解明と遺伝子治療への応用	中嶋康文	麻酔科学	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
手術動作の医工学的な解析と、それらを基盤とした科学的なトレーニング法の構築	木下秀文	腎泌尿器外科学	390,000	補委	日本学術振興会 科研費
転写因子HAND2による着床制御機構の解明	岡田英孝	産科学・婦人科学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
脂肪幹細胞の低酸素応答メカニズムの解明と新たな体外増幅法の開発	覚道奈津子	形成外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症ショックに対するβ受容体機能調整を利用した新しい循環制御法の開発	鎌方安行	救急医学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
来院時心肺停止患者における赤血球表面上の補体沈着とその侵襲の評価	室谷卓	救急医学	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
炎症性腸疾患モデルマウスにおけるmicroRNAの制御機構	安藤祐吾	内科学第三	2,340,000	補委	日本学術振興会 科研費
がん患者の不眠障害に対する在宅心身モニタリングの検討	蓮尾英明	心療内科学	390,000	補委	日本学術振興会 科研費
自然免疫反応からみた1型自己免疫性膵炎の病態解明	内田一茂	内科学第三	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
食後高血糖・食後高中性脂肪血症が骨髄幹細胞・血管内皮前駆細胞に与える影響	岩崎真佳	内科学第二	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
インドシアニングリーン・ラクトソームを用いた胆嚢癌に対する新規治療法の研究開発	海堀昌樹	外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
グリオーマがん幹細胞におけるOX40シグナルの機能解析	浅井昭雄	脳神経外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

網膜静脈閉塞症の病的/生理的血管新生発生要因をOCTアンギオグラフィーで検討する	高橋寛二	眼科学	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
多血小板血漿による創傷治癒過程における脂肪誘導の検討	楠本健司	形成外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
光環境サイクルという視点からの、新たな心身症治療法の可能性	福永幹彦	心療内科学	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
高悪性度腎細胞癌の治療薬シーズの探索	大江知里	臨床病理学	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費
強力に複数の炎症性サイトカインを抑制する新薬・DHMEQのSLEに対する治療開発	山内壮作	小児科学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
非アルコール性脂肪性肝炎の線維化進行と肝発癌を予測する新規バイオマーカーの開発	山口隆志	内科学第三	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費
自己免疫性膵炎の発症病態や制御機構に関わるIL-35の働き	田中敏宏	内科学第三	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
レナリドミドの移植片対宿主病に及ぼす影響の解明ー制御性T細胞を中心としてー	吉村英晃	内科学第一	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症病態におけるセルフフリーDNAの制御とマイクロRNAを用いた遺伝子治療の応用	添田岳宏	麻酔科学	2,990,000	補委	日本学術振興会 科研費
難治性敗血症に対するセンスオリゴヌクレオチドを用いた新規核酸薬の開発研究	中竹利知	外科学	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費
脳転移開始細胞を用いた脳転移の機序解明	岩田亮一	脳神経外科学	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
グリオーマの増殖を抑制する転写因子の解明	山村奈津美	脳神経外科学	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
Ovol2/MOVOが精子形成過程において果たす機能とその役割の解明	谷口久哲	腎泌尿器外科学	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

円錐切除術時に発生するsurgical smokeに含まれるHPVに関する研究	久松洋司	産科学・婦人科学	390,000	補委	日本学術振興会 科研費
活性化組織好酸球に発現するCD69の機能的役割の解明	尹泰貴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
弾性線維欠損マウス及び網膜光凝固術を用いたポリープ状脈絡膜血管症モデルの作成	盛秀嗣	眼科学	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
眼内虚血時における病的血管新生を防ぎつつ、生理的血管新生を誘導する方法を検討する	嶋千絵子	眼科学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
頭頸部癌適応放射線治療の適応回数及びタイミングの人工知能に基づく最適化基盤の構築	武川英樹	放射線科学	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
放射線治療計画の品質を高める包括的研究	姉帯優介	放射線科学	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
カテーテルにコーティングされたPMEAのバイオフィルム形成抑制効果の証明	小野泰之	放射線科学	390,000	補委	日本学術振興会 科研費
microRNAによる骨髄由来抑制細胞の制御が及ぼす敗血症時免疫抑制病態の解明	西本浩太	麻酔科学	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸内細菌叢に注目した膀胱尿管逆流症例に対する再発性尿路感染症の新規予防法の確立	木全貴久	小児科学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
難治性乳糜漏に対する胸管-下大静脈バイパス術の基礎的研究	丸山拓士	放射線科学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
拡張現実(AR)技術を応用した麻酔穿刺針ガイドシステムの新規開発研究	吉田敬之	麻酔科学	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費
地域を網羅した大規模救急患者レジストリ分析による救急医療改善の新たな試み	鎌方安行	救急医学	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
次世代シーケンサーを用いた急性脳炎・脳症診断への新たな取り組み	高橋弘毅	救急医学	130,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計
13件

減量外科治療における効果不良因子の検討-多施設共同調査研究	井上健太郎	外科学	149,500	補委	日本学術振興会 科研費
病態解明および創薬を目標とした小児先天性心疾患患者の赤血球中microRNA解析	中嶋康文	麻酔科学	13,000	補委	日本学術振興会 科研費
2型糖尿病易感染性病態の解明と治療に向けた白血球遺伝子及びcfDNAの網羅的解析	中嶋康文	麻酔科学	13,000	補委	日本学術振興会 科研費
正規化・データベース化した病理DICOMの探索による術中患部移動変形計算について	埜中正博	脳神経外科学	260,000	補委	日本学術振興会 科研費
放射線性多発う蝕の発生秩序の解明と予防法に関する他施設共同ランダム化比較試験	兒島由佳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	65,000	補委	日本学術振興会 科研費
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	岡崎和一	内科学第三	24,999,000	補委	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	岡崎和一	内科学第三	250,000	補委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患の移行期を包含し診療の質の向上に関する研究	濱田吉則	外科学	160,000	補委	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、重症度分類、診療ガイドラインの確立に関する研究	神戸直智	皮膚科学	500,000	補委	厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	高橋寛二	眼科学	400,000	補委	厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	埜中正博	脳神経外科学	500,000	補委	厚生労働省
高齢者のがん医療の質の向上に資する簡便で効果的な意思決定支援プログラムの開発に関する研究	海堀昌樹	外科学	700,000	補委	厚生労働省
慢性疼痛診療体制構築モデル事業	水野泰之	心療内科学	200,000	補委	厚生労働省
先天性巨大色素性母斑を母地とした悪性黒色腫に対する予防的低侵襲治療方法の開発～First-in-man臨床研究から先進医療へ	森本尚樹	形成外科学	40,300,001	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)

小計
14件

がん治療中のせん妄の発症予防を目指した多職種せん妄プログラムの開発	海堀昌樹	外科学	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
認知症合併に対応した最適の治療選択と安全性の向上を目指した支援プログラムの開発	海堀昌樹	外科学	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究	海堀昌樹	外科学	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準治療に関する研究	井上健太郎	外科学	299,929	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
局所進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するシスプラチン+S-1同時胸部放射線治療とシスプラチン+ペメトレキセド同時胸部放射線治療の無作為化第II相試験	倉田宝保	内科学第一	100,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブ単剤治療とゲフィチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験 (JCOG1404/WJOG8214L:AGAIN)	倉田宝保	内科学第一	520,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究	倉田宝保	内科学第一	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
未来のがん診療に資する改革的技術を導入したバイオマーカー測定の有用性を評価する大規模前向き観察研究	蔦幸治	臨床病理学	455,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するテモゾロミドを用いた標準治療確立に関する研究	浅井昭雄	脳神経外科学	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
がん患者の難治性神経障害性疼痛へのエビデンスに基づく標準的薬物療法の開発	蓮尾英明	心療内科学	169,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
IgG4 関連疾患の新規バイオマーカーと治療ターゲット開発に関する研究	岡崎和一	内科学第三	2,210,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
自己炎症性症候群Blau症候群と中條西村症候群の病態解析と新規治療標的探索	神戸直智	皮膚科学	1,560,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
内視鏡外科手術における熟練技術追体験システムを使用したトレーニングシステムの評価	松田公志	腎泌尿器外科学	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)

小計
13件

TLR7を標的としたSLE治療薬の開発	伊藤量基	内科学第一	1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構 (AMED)
C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈投与に関する臨床研究	海堀昌樹	外科学	7,137,561	補 委	日本医療研究開発機構 (AMED)
未来医療を実現する先端医療機器・システムの研究開発/先端医療機器の開発/麻痺した運動や知覚の機能を回復する医療機器・システムの研究開発	長谷公隆	リハビリテーション医学	10,000,000	補 委	日本医療研究開発機構 (AMED)
脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発 副題:外骨格ロボットと脳機能ニューロフィードバックによる身体および認知・感覚運動機能のICTを活用したリハビリテーションシステムの開発	長谷公隆	リハビリテーション医学	5,000,000	補 委	情報通信研究機構 (NICT)
Invasive front の3次元可視化と空間的病理解析による肺腺癌の浸潤機構の解明	齊藤朋人	呼吸器外科学	1,000,000	補 委	公益財団法人 SGH財団 第30回(2018年度) SGHがん研究助成金
塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) と細胞増殖因子保持型人工真皮を用いた脂肪再生療法の開発	覚道奈津子	形成外科学	500,000	補 委	公益財団法人 日本女医会 第39回日本女医会学術研究助成山崎倫子賞
ショックを伴う外傷後に発生する腸管虚血症に対するPDEの使用、PDEを用いた腸管損傷に対する虚血範囲の同定方法の確立	中村文子	救急医学	1,000,000	補 委	一般社団法人 日本損害保険協会
ミトコンドリア機能からみた腎移植レシピエントにおけるサルコペニアや運動機能評価に関する研究	松崎和炯	腎泌尿器外科学	100,000	補 委	公益財団法人 大阪腎臓バンク
在宅緩和ケアにおける筋膜性疼痛に対する非侵襲的局所療法の有効性についての多施設無作為化比較試験	蓮尾英明	心療内科学	1,680,000	補 委	公益財団法人 笹川保健財団
妊娠成立に向けたヒト子宮内膜機能に及ぼす喫煙の影響	岡田英孝	産科学婦人科学	2,000,000	補 委	公益財団法人 喫煙科学研究財団 2019年度喫煙科学研究財団助成研究
ヒト膵β細胞からのインスリン分泌に及ぼすニコチン及び甲状腺ホルモンの影響に関する検討	豊田長興	内科学第二	2,000,000	補 委	公益財団法人 喫煙科学研究財団 2019年度喫煙科学研究財団助成研究

小計
11件

合計 102 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題 名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ito T, Konishi A, Tsubokura Y, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Combined Use of Ninjin'yoeito Improves Subjective Fatigue Caused by Lenalidomide in Patients With Multiple Myeloma: A Retrospective Study.	Frontiers in nutrition 21(5):72-72 2018/08	Original Article
2	Nakaya A, Fujita S, Satake A, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	How to select Tyrosine Kinase Inhibitor for the patients with newly diagnosed Chronic Myeloid Leukemia?	Journal of Hematology and Blood Disorders 4 2018/08	Original Article
3	Nomura S, Ito T, Satake A, Ishii K.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Assessment of soluble cytotoxic T lymphocyte-associated antigen-4, transforming growth factor β 1, and platelet-derived microparticles during dasatinib therapy for patients with chronic myelogenous leukemia.	Journal of blood medicine 10:1-8 2018/12	Original Article
4	Nakaya A, Fujita S, Satake A, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Clinical significance of dasatinib-induced pleural effusion in patients with de novo chronic myeloid leukemia.	Hematology reports 10(3):7474 2018/09	Original Article
5	Hotta M, Nakaya A, Fujita S, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Blastic Epstein-Barr virus associated post-transplant lymphoproliferative disorder after allogeneic stem cell transplantation for severe aplastic anemia.	Hematology reports 10(2):7527 2018/05	Original Article
6	Yoshioka H, Kogure Y, Ando M, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Phase II Study of Weekly Amrubicin for Refractory or Relapsed Small Cell Lung Cancer.	In vivo 32(6):1581-1586 2018/12	Original Article
7	Nakaya A, Kurata T, Yoshioka H, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Neutrophil-to-lymphocyte ratio as an early marker of outcomes in patients with advanced non-small-cell lung cancer treated with nivolumab.	International journal of clinical oncology 23(4):634-640 2018/08	Original Article
8	Shimizu M, Konishi A, Nomura S.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Examination of biomarker expressions in sepsis-related DIC patients.	International journal of general medicine 11:353-361 2018/09	Original Article
9	Miyashita N, Kobayashi I, Higa F, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	In vitro activity of various antibiotics against clinical strains of Legionella species isolated in Japan.	Journal of infection and Chemotherapy 24(5):325-329 2018/05	Original Article
10	Ito T, Nakaya A, Fujita S, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Secondary pure red cell aplasia in multiple myeloma treated with lenalidomide.	Leukemia research reports 4-6 2018/07	Original Article
11	Nakaya A, Yagi H, Kaneko H, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Retrospective analysis of primary plasma cell leukemia in Kansai Myeloma Forum registry.	Leukemia research reports (10):7-10 2018/07	Original Article
12	Nakaya A, Fujita S, Satake A, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Human T-cell Leukemia Virus Type I Associated with an Increased Risk of Primary Malignant Neoplasm.	Mediterranean journal of hematology and infectious diseases 10(1):e2018024 2018/04	Original Article
13	Niki M, Nakaya A, Kurata T, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Immune checkpoint inhibitor re-challenge in patients with advanced non-small cell lung cancer.	Oncotarget 9(64):32298-32304 2018/08	Original Article
14	Tsujimoto S, Mokuda S, Matoba K, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	The prevalence of endoscopic gastric mucosal damage in patients with rheumatoid arthritis.	PLoS ONE 13(7):e0200023. 2018/07	Original Article
15	Nomura S, Taniura T, Shouzu A, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Effects of sarpogrelate, eicosapentaenoic acid and pitavastatin on arteriosclerosis obliterans-related biomarkers in patients with type 2 diabetes (SAREPITASO study)	Vascular health and risk management 14:225-232 2018/09	Original Article
16	Hotta M, Yoshimura H, Satake A, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	GM-CSF therapy inhibits chronic graft-versus-host disease via expansion of regulatory T cells.	European journal of immunology 49(1):179-191 2019/01	Original Article
17	Ishii K, Nakaya A, Fujita S, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Myodesopsia is a symptom of central nervous system blast crisis in chronic myeloid leukemia.	Leukemia research reports 11:8-10 2019/03	Case Report
18	Konishi A, Nakaya A, Fujita S, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Evaluation of eltrombopag in patients with aplastic anemia in real-world experience.	Leukemia research reports 11:11-13 2019/03	Original Article
19	Niki M, Nakaya A, Kurata T, et al.	血液呼吸器膠原病感染症内科	Pembrolizumab-induced autoimmune encephalitis in a patient with advanced non-small cell lung cancer: A case report.	Molecular and clinical oncology 10(2):267-269 2019/02	Original Article
20	Shibutani H, Yutaka K, Mukai Y, et al.	循環器内分泌代謝内科	Cardiac tamponade secondary to right ventricular perforation caused by a temporary pacemaker lead in the course of myocardial infarction.	Cardiology Journal 25(4):538-539 2018/09	Original Article
21	Tsukaguchi H, Fujita A, Koshimizu E, et al.	循環器内分泌代謝内科	Homozygous splicing mutation in NUP133 causes Galloway-Mowat syndrome.	Annals of neurology 84(6):814-828 2018/12	Original Article

小計
21件

22	Shibutani H, Akita Y, Oishi Y, et al.	循環器内分泌代謝内科	The potential hazard of a non-slip element balloon causing distal longitudinal stent deformation: the first clinical experience and in vitro assessment.	Cardiology Journal Jun 20[Epub ahead of print] 2018/06	Original Article
23	Tsukaguchi H, Sato Y, Morita H, Higasa K, et al.	循環器内分泌代謝内科	MAFB Mutation Causes Focal Segmental Glomerulosclerosis with Duane Retraction Syndrome.	Kidney international 94(2):396-407 2018/08	Original Article
24	Nishimura K, Takeda M, Yamashita JK, et al.	循環器内分泌代謝内科	Type 3 iodothyronine deiodinase is expressed in human induced pluripotent stem cell derived cardiomyocytes.	Life sciences 203:276-281 2018/06	Original Article
25	Hata Y, Iwasaki M, Fujitaka K, et al.	循環器内分泌代謝内科	Heparin Induces the Mobilization of Heart-Derived Multipotent Mesoangioblasts During Cardiac Surgery With Cardiopulmonary Bypass or Cardiac Catheterization.	Circulation journal 82(5):1459-1465 2018/04	Original Article
26	Fukui T, Tanimura Y, Matsumoto Y, et al.	消化器肝臓内科	Incidentally Detected Amyloid Light-Chain Amyloidosis Caused by Monoclonal Gammopathy of Undetermined Significance: Possible Time-Dependent Change in Colonic Findings	Case reports in gastroenterology 12(3):737-746 2018/12	Original Article
27	Okazaki K, Uchida K.	消化器肝臓内科	Current perspectives on autoimmune pancreatitis and IgG4-related disease.	Proceedings of the Japan Academy Series B 94(10):412-427 2018/12	Review
28	Okazaki K, Uchida K.	消化器肝臓内科	Current Concept of Autoimmune Pancreatitis and IgG4-related Disease.	The American journal of gastroenterology 113(10):1412-1416 2018/10	Original Article
29	Uchida K, Ynagawa M, Okazaki K.	消化器肝臓内科	Response to the Letter by Poddighe et al. regarding our manuscript "Basophils activated via TLR signaling may contribute to pathophysiology of type 1 autoimmune pancreatitis".	Journal of gastroenterology 53(6):793-794 2018/06	Others
30	Uchida K, Okazaki K.	消化器肝臓内科	Clinical and pathophysiological aspects of type 1 autoimmune pancreatitis.	Journal of gastroenterology 53(4):475-483 2018/04	Review
31	Matsui F, Inaba M, Uchida K, et al.	消化器肝臓内科	Induction of PIR-A/B(+) DCs in the in vitro inflammatory condition and their immunoregulatory function.	Journal of gastroenterology 53(10):1131-1141 2018/10	Original Article
32	Yamaguchi T, Seki T, Komemushi A, et al.	消化器肝臓内科	Acute necrotizing pancreatitis as a fatal complication following DC Bead transcatheter arterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma: A case report and review of the literature.	Molecular and clinical oncology 9(4):403-407 2018/10	Original Article
33	Tomiyama T, Orino M, Nakamaru K, et al.	消化器肝臓内科	Esophageal Large-Cell Neuroendocrine Carcinoma with Inconsistent Response to Treatment in the Primary and Metastatic Lesions.	Case reports in gastroenterology 12(2):234-239 2018/05	Original Article
34	Ito T, Kawa S, Matsumoto A, et al.	消化器肝臓内科	Risk Factors for Pancreatic Stone Formation in Type 1 Autoimmune Pancreatitis: A Long-term Japanese Multicenter Analysis of 624 Patients.	Pancreas 48(1):49-54 2019/01	Original Article
35	Hasuo H, Kanbara K, Sakuma H, et al.	心療内科	Awareness of comfort immediately after a relaxation therapy session affects future quality of life and autonomic function: a prospective cohort study on the expectations of therapy.	BioPsychoSocial medicine 12:16 2018/11	Original Article
36	Hideaki Hasuo, Hiroko Sakuma, Kenji Kanbara, et al.	心療内科	Intravenous Chlorpromazine for the Short-Term Treatment of Insomnia in End-Stage Cancer Patients With Difficulty in Oral Administration	Journal of Pain & Palliative Care Pharmacotherapy 0539-1536 2018/10	Others
37	Hasuo H, Kanbara K, Fujii R, et al.	心療内科	Factors Associated with the Effectiveness of Intravenous Administration of Chlorpromazine for Delirium in Patients with Terminal Cancer.	Journal of palliative medicine 21(9):1257-1264 2018/09	Original Article
38	Hasuo H, Kanbara K, Sakuma H, et al.	心療内科	Self-Care System for Family Caregivers of Cancer Patients Using Resonant Breathing with a Portable Home Device: A Randomized Open-Label Study.	Journal of palliative medicine 22(1):18-24 2019/01	Original Article
39	Nakamura M, Ueki S, Kubo M, et al.	脳神経内科	Two cases of sporadic adult-onset neuronal intranuclear inclusion disease preceded by urinary disturbance for many years.	Journal of the neurological sciences 392:89-93 2018/09	Original Article
40	Murakami A, Nakamura M, Kaneko S, et al.	脳神経内科	Aberrant accumulation of ErbB4 in progressive supranuclear palsy.	Neuropathology and applied neurobiology 44(6):563-573 2018/10	Original Article
41	Kunieda T, Miyake K, Sakamoto H, et al.	脳神経内科	A Randomized Controlled Trial Evaluating the Effectiveness of Pretreatment With the Free Radical Scavenger, Edaravone, Before Carotid Artery Stenting.	Stroke 50(Suppl.1):ATP523 2019/02	Others
42	Tsuji S, Suruda C, Kimata T, et al.	小児科	The effect of family assistance to wake children with monosymptomatic enuresis in alarm therapy: A pilot study.	The Journal of urology 199(4):1056-1060 2018/04	Original Article
43	Kino J, Tsuji S, Kitao T, et al.	小児科	Anti-proteinuric effect of an endothelin-1 receptor antagonist in puromycin aminonucleoside induced nephrosis in rat.	Pediatric research 83(5):1041-1048 2018/05	Original Article
44	Tsuji S, Takewa R, Ohnuma C, et al.	小児科	Nocturnal enuresis and poor sleep quality.	Pediatrics international 60(11):1020-1023 2018/11	Original Article

45	Akagawa S, Tsuji S, Onuma C, et al.	小児科	Effect of Delivery Mode and Nutrition on Gut Microbiota in Neonates.	Annals of nutrition & metabolism 74(2):132-139 2019/02	Original Article
46	Nakatake R, Ishizaki M, Miyasaka C, et al.	外科	Hepatectomy in a case of hepatocellular carcinoma with constitutional indocyanine green excretory defect.	International journal of surgery case reports 53:231-234 2018	Original Article
47	Yamamoto T, Satoi S, Fujii T, et al.	外科	Dual-center randomized clinical trial exploring the optimal duration of antimicrobial prophylaxis in patients undergoing pancreaticoduodenectomy following biliary drainage.	Annals of Gastroenterological Surgery 2(6):442-450 2018/09	Original Article
48	Kaibori M, Yoshii K, Yokota I.	外科	Reply to "Relative Survival Instead of Overall Survival Should be Used as Outcome When Analyzing the Effect of Age After Treatment of Hepatocellular Carcinoma".	Annals of surgery 268(6):e76-e77 2018/12	Original Article
49	Matsui Y, Yamaki S, Hirooka S, et al.	外科	Evaluation of relative criteria for single-incision laparoscopic cholecystectomy.	Asian journal of surgery 41(3):216-221 2018/05	Original Article
50	Sugie T.	外科	Immunotherapy for metastatic breast cancer.	Chinese clinical oncology 7(3):28 2018/06	Original Article
51	Nakatake R, Kotsuka M, Hashimoto Y, et al.	外科	Glutathione inhibits expression of the proinflammatory biomarker inducible nitric oxide synthase in hepatocytes	Functional Foods in Health and Disease 8(12):544-560 2018/12	Original Article
52	Inoue k, Michiura T, Fukui J, et al.	外科	A randomized controlled trial of running versus interrupted subcuticular sutures for skin closure in open gastric surgery	International surgery 103(5-6):305-314 2018/05	Original Article
53	Matsui Y, Hirooka S, Yamaki S, et al.	外科	Near-miss hepatic duct injury resulting from misidentification of Calot's triangle during laparoscopic cholecystectomy	JSLs : Journal of the Society of Laparoendoscopic Surgeons e2018.00041-e2018.00041 2018/11	Case Report
54	Satoi S, Yamamoto T, Matsui Y	外科	Conversion surgery in patients with initially unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma: where do we stand in 2018?	Journal of Pancreatology 1(1):25-29 2018/12	Review
55	Sakaguchi T, Hamada Y, Shirai T, et al.	外科	Biliary atresia associated with pancreaticobiliary maljunction	Journal of Pediatric Surgery Case Reports 39:48-52 2018/10	Original Article
56	Matsui Y, Hirooka S, Kotsuka M, et al.	外科	Use of a piece of free omentum to prevent bile leakage after subtotal cholecystectomy.	Surgery 164(3):419-423 2018/09	Original Article
57	Nakatake R, Ishizaki M, Ishida M, et al.	外科	Resection for Primary Retroperitoneal Serous Adenocarcinoma and Liver Metastasis.	Internal medicine 57(23):3371-3375 2018/12	Case Report
58	Matsui Y, Hirooka S, Kon M.	外科	Management of injury to ducts of Luschka during cholecystectomy.	Annals of the Royal College of Surgeons of England 101(3):225 2019/03	Original Article
59	Matsui Y, Hirooka S, Yamaki S, et al.	外科	Evaluation of relative criteria for single-incision laparoscopic cholecystectomy.	Asian journal of surgery 42(2):470-471 2019/02	Original Article
60	Satoi S, Yamamoto T, Yanagimoto H, et al.	外科	Does modified Blumgart anastomosis without intra-pancreatic ductal stenting reduce post-operative pancreatic fistula after pancreaticojejunostomy?	Asian journal of surgery 42(1):343-349 2019/01	Original Article
61	Yoshikawa K, Miyata M, Sueoka N, et al.	外科	Effective Steroid Therapy for Reexpansion Pulmonary Edema	JMA Journal 2(1):97-98 2019/03	Others
62	Kaibori M, Miyata G, Yoshii K, et al.	外科	Perioperative management for gastrointestinal surgery after instituting interventions initiated by the Japanese Society of Surgical Metabolism and Nutrition.	Asian journal of surgery Mar 13. 2019/03	Original Article
63	Hino H, Nitadori J, Ohno K, et al.	呼吸器外科	An Unusual Invasive Ectopic Thymoma in the Thyroid and Anterior Mediastinum.	Annals of Thoracic Surgery 106(2):e65-e67 2018/08	Case Report
64	Saito T, Liu M, Binnie M, et al.	呼吸器外科	Upregulation of alveolar neutrophil enzymes and long pentraxin-3 in human chronic lung allograft dysfunction subtypes.	The Journal of thoracic and cardiovascular surgery 155(6):2774-2776 2018/06	Original Article
65	Saito T, Tsuta K, Ishida M, et al.	呼吸器外科	Comparative study of programmed cell death ligand-1 immunohistochemistry assays using 22C3 and 28-8 antibodies for non-small cell lung cancer: Analysis of 420 surgical specimens from Japanese patients.	Lung Cancer 125:230-237 2018/11	Original Article
66	Saito T, Saito Y, Fukumoto KJ, et al.	呼吸器外科	Clinical and pathological characteristics of spontaneous pneumothorax in women: a 25-year single-institutional experience.	General thoracic and cardiovascular surgery 66(9):516-522 2018/09	Original Article

小計
22件

67	Minato N, Okada T, Kanemoto S, et al.	心臓血管外科	Segmental clamp and distal perfusion technique for reducing myocardial ischemia during coronary onlay grafting on a beating heart.	Surgery today 48(5):566-570 2018/05	Original Article
68	Miyama N, Komai H, Nakamura T, et al.	心臓血管外科	Long-Term Results of Crossover Bypass for Iliac Atherosclerotic Lesions in the Era of Endovascular Treatment The Re-ACTION study (Retrospective Assessment of Crossover Bypass as a Treatment for Iliac Lesions)	Annals of Vascular Diseases 11(2):217-222 2018/06	Original Article
69	Hosono M, Kuwauchi S, Taniguchi N, et al.	心臓血管外科	Posterior leaflet reconstruction using autologous pericardium in mitral repair.	General thoracic and cardiovascular surgery 66(7):432-434 2018/07	Case Report
70	Mitsuharu Hosono, Takashi Murakami, Hidekazu Hirai, et al.	心臓血管外科	The risk factor analysis of the late graft failure of radial artery graft in coronary artery bypass grafting.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 25(1):32-38 2018/8	Original Article
71	Okada T, Minato N, Kanemoto S, et al.	心臓血管外科	Intimal regeneration after coronary endarterectomy and onlay grafting in coronary artery bypass grafting.	General thoracic and cardiovascular surgery 67(8):677-683 2019/2	Original Article
72	Oe K, Iida H, Kobayashi F, et al.	整形外科	Reattachment of an osteotomized greater trochanter in total hip arthroplasty using an ultra-high molecular weight polyethylene fiber cable.	Journal of orthopaedic science 23(6):992-999 2018/11	Original Article
73	Ando M, Tamaki T, Matsumoto T, et al.	整形外科	Can postoperative deltoid weakness after cervical laminoplasty be prevented by using intraoperative neurophysiological monitoring?	J Clin Monit Comput. 33(1):123-132 2019/02	Original Article
74	Kushida T, Adachi T, Tani Y, et al.	整形外科	Intradural Spinal Metastases during Systemic Chemotherapy for Non-Hodgkin's Lymphoma: A Case Report.	Spine Surgery and Related Research 3(1):98-101 2019/01	Original Article
75	Morimoto N, Kakudo N, Mitsui T, et al.	形成外科	The Effectiveness of Saireito, a Traditional Japanese Herbal Medicine, in Reducing Postoperative Edema after Acquired Ptosis Surgery: A Prospective Controlled Trial.	Evidence-based Complementary and Alternative Medicine 4742305 2018/06	Original Article
76	Takegawa M, Kakudo N, Morimoto N, et al.	形成外科	Giant Nevus Lipomatosus Cutaneous Superficialis on the Buttock.	Plastic and reconstructive surgery. Global open 6(11):e1918 2018/11	Case Report
77	Kakudo N, Takegawa M, Hihara M, et al.	形成外科	Reconstruction of Medial Canthal Tendon Using Novel Suture Anchoring System: A Case Report.	Plastic and reconstructive surgery. Global open 6(10):e1908 2018/10	Original Article
78	Hikiami R, Kakudo N, Morimoto N, et al.	形成外科	Multiple Giant Pilomatricomas of the Shoulder and Upper Limbs.	Eplasty 18:ic20 2018/09	Original Article
79	Morimoto N, Kakudo N, Kako A, et al.	形成外科	A case report of the first application of culture epithelial autograft (JACE®) for giant congenital melanocytic nevus after its approval in Japan.	Journal of artificial organs 21(2):261-264 2018/06	Case Report
80	Maeda T, Morimoto N, Kakudo N, et al.	形成外科	Efficacy of Cultured Epithelial Autograft after Curettage for Giant Melanocytic Nevus of the Head.	Plastic and reconstructive surgery 6(6):e1827 2018/06	Original Article
81	Nguyen CTH, Kambe N, Ueda-Hayakawa I, et al.	皮膚科	TARC expression in the circulation and cutaneous granulomas correlates with disease severity and indicates Th2-mediated progression in patients with sarcoidosis.	Allergology international 67(4):487-495 2018/10	Original Article
82	Nguyen CTH, Kambe N, Yamazaki F, et al.	皮膚科	Up-regulated expression of CD86 on circulating intermediate monocytes correlated with disease severity in psoriasis.	Journal of dermatological science 90(2):135-143 2018/05	Original Article
83	Kogame T, Ohe S, Yamazaki F, et al.	皮膚科	Extraocular sebaceous carcinoma accompanied by invasive squamous cell carcinoma: The first case report and consideration of histogenesis.	The Journal of dermatology 45(4):501-504 2018/04	Original Article
84	Matsuda T, Ueda-Hayakawa I, Kambe N, et al.	皮膚科	Four cases of anti-Mi-2 antibody-positive dermatomyositis: relationship between anti-Mi-2 antibody titre and disease severity and activity.	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology 32(6):e233-e234 2018/06	Original Article
85	Terai S, Ueda-Hayakawa I, Nguyen CTH, et al.	皮膚科	Palisaded neutrophilic and granulomatous dermatitis associated with systemic lupus erythematosus: possible involvement of CD163(+) M2 macrophages in two cases, and a review of published works.	Lupus 27(14):2220-2227 2018/12	Original Article
86	Inoue T, Miyazaki J, Ichioka D, et al.	腎泌尿器外科	A comparison of nephrotoxicity between patients with a solitary-functioning kidney and those with bilateral-functioning kidneys in cisplatin-based chemotherapy for advanced urothelial carcinoma: a Japanese retrospective multi-institutional study.	BMC cancer 18(1):290 2018/04	Original Article
87	Yanishi M, Kinoshita H, Tsukaguchi H, et al.	腎泌尿器外科	Factors related to osteosarcopenia in kidney transplant recipients	Transplantation proceedings 50:3371-3375 2018/12	Original Article
88	Takayasu K, Yoshida K, Kinoshita H, et al.	腎泌尿器外科	Analysis of the tractive force pattern on a knot by force measurement during laparoscopic knot tying.	American journal of surgery 216(2):314-318 2018/08	Original Article

89	Taguchi M, Yoshida K, Sugi M, et al.	腎泌尿器外科	Simplified method using kidney / ureter / bladder x-ray to determine the appropriate length of ureteral stents.	International braz j urol 44(6):1224-1233 2018/12	Original Article
90	Yoshida T, Taguchi M, Inoue T, et al.	腎泌尿器外科	Thulium laser ablation facilitates retrograde intra-renal surgery for upper urinary tract urothelial carcinoma.	International journal of urology 25(4):379-380 2018/04	Original Article
91	Yoshida T, Inoue T, Taguchi M, et al.	腎泌尿器外科	Development of new experimental kidney model for in vitro study of retrograde intrarenal surgery: The "T-box".	International journal of urology 25(10):898-900 2018/10	Original Article
92	Yanishi M, Kinoshita H, Tsukaguchi H, et al.	腎泌尿器外科	The creatinine/cystatin C ratio provides effective evaluation of muscle mass in kidney transplant recipients.	International urology and nephrology 38(10):2460-2473 2018/10	Original Article
93	Yoshida T, Inoue T, Abe T, et al.	腎泌尿器外科	Evaluation of intrapelvic pressure when using small-sized ureteral access sheaths of $\leq 10/12$ Fr in an ex vivo porcine kidney model.	Journal of Endourology 32(12):1142-1147 2018/12	Original Article
94	Yoshida T, Hayami Y, Yoshida K, et al.	腎泌尿器外科	Successful management of a patient with radiological presentation of choriocarcinoma syndrome before induction chemotherapy.	Journal of cancer research and therapeutics 14(Supplement):S803-S805 2018/09	Case Report
95	Inoue T, Watanabe M, Shimada S, et al.	腎泌尿器外科	Successful Ultra-Minimally Invasive Endoscopic Intrarenal Surgery for 2-Year-Old Boy with Bilateral Cystine Kidney Stones Over 2 cm.	PLoS ONE 13(7):e0200023. 2018/07	Original Article
96	Sugi M, Kinoshita H, Yoshida T, et al.	腎泌尿器外科	The narrow vesicourethral angle measured on postoperative cystography can predict urinary incontinence after robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy.	Scandinavian journal of urology and nephrology 52(2):151-156 2018/04	Original Article
97	Takizawa N, Tanaka S, Oe S, et al.	腎泌尿器外科	Involvement of DHH and GLI1 in adrenocortical autograft regeneration in rats.	Scientific reports 8(1):14542 2018/09	Original Article
98	Takayasu K, Yoshida K, Mishima T, et al.	腎泌尿器外科	Upper body position analysis of different experience level surgeons during laparoscopic suturing maneuvers using optical motion capture.	American journal of surgery 217(1):12-16 2019/01	Original Article
99	Takahashi K, Ohji M, Terasaki H, et al.	眼科	Efficacy and safety of ranibizumab monotherapy versus ranibizumab in combination with verteporfin photodynamic therapy in patients with polypoidal choroidal vasculopathy: 12-month outcomes in the Japanese cohort of EVEREST II study.	Clinical ophthalmology 12:1789-1799 2018/09	Original Article
100	Mori H, Yamada H, Toyama K, et al.	眼科	A new histological evaluation method to detect residual ophthalmic viscosurgical devices for cataract surgery.	Heliyon 4(9):e00822 2018/09	Original Article
101	Mori H, Nakamichi Y, Takahashi K.	眼科	Multiple Juvenile Xanthogranuloma of the Eyelids.	Ocular oncology and pathology 4(2):73-78 2018/09	Original Article
102	Nakagawa K, Yamada H, Mori H, et al.	眼科	Comparison between optical coherence tomography angiography and immunolabeling for evaluation of laser-induced choroidal neovascularization.	PLoS ONE 13(8):e0201958 2018/08	Original Article
103	Mori H, Yamada H, Toyama K, et al.	眼科	Developmental and age-related changes to the elastic lamina of Bruch's membrane in mice.	Graefes archive for clinical and experimental ophthalmology 257(2):289-301 2019/02	Original Article
104	Okazaki H, Kanda A, Kanda S, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Cells Expressing Prominin-1 in Neonatal Murine Inferior Colliculus Differentiate into Neurons and Glia.	Molecular neurobiology 55(6):4998-5005 2018/06	Original Article
105	Suzuki K, Iwai H, Yagi M, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Indications for partial parotidectomy using retrograde dissection of the marginal mandibular branch of the facial nerve for benign tumours of the parotid gland.	The British journal of oral & maxillofacial surgery 56(8):727-731 2018/10	Original Article
106	Kobayashi Y, Yasuba H, Asako M, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	HFA-BDP Metered-Dose Inhaler Exhaled Through the Nose Improves Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis With Bronchial Asthma: A Blinded, Placebo-Controlled Study	Frontiers in immunology 9:2192 2018/09	Original Article
107	Hamada S, Hira D, Kobayashi Y, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Effect of nasally exhaling budesonide/formoterol dry powder inhaled at "fast" inspiratory flow on eosinophilic chronic rhinosinusitis	International journal of clinical pharmacology and therapeutics 56(11):539-543 2018/10	Original Article
108	Suzuki K, Shimizu M, Sakagami T, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	A Comparison of Short-Term Outcomes of Neck Dissection for Head and Neck Cancers Using ThunderbeatTM, LigaSureTM or Treatment without an Energy-based Device: A Case Controlled Study	International journal of surgery 58:60-64 2018/10	Original Article
109	Kanda A, Kondo K, Hosaka N, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Eosinophilic Upper Airway Inflammation in a Murine Model Using an Adoptive Transfer System Induces Hyposmia and Epithelial Layer Injury with Convex Lesions.	Medical sciences (Basel, Switzerland) 7(2):E22 2019/02	Original Article
110	Kanda A, Kobayashi Y, Asako M, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Regulation of Interaction between the Upper and Lower Airways in United Airway Disease.	Medical sciences (Basel, Switzerland) 7(2):E27 2019/02	Original Article
111	Nobukata Kazawa ,Yuta Shibamoto , Takanobu Otsuka	放射線科	The US/CT/MRI/PET Imaging Findings of Malignant Triton Tumor of the Shoulder in a NF-1 (Von Recklinghausen disease) Patient.	Austin Journal of Medical Oncology 5(2):1-4 2018/9	Others

112	Atsushi Komemushi, Noriaki Sakamoto	放射線科	2016 IR Guidelines for Blunt hepatic trauma. <i>Interventional Radiology</i> . 2018, Volume 3 Issue 1 1–27	<i>Interventional Radiology</i> 3(1):1–27 2018/4	Review
113	Tanigawa N, Arai Y, Yamakado K, et al.	放射線科	Phase I/II Study of Radiofrequency Ablation for Painful Bone Metastases: Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group 0208.	<i>Cardiovascular and interventional radiology</i> 41(7):1043–1048 2018/07	Original Article
114	Harima Y.	放射線科	Letter to The Editor “A randomised clinical trial of radiation therapy versus thermoradiotherapy in stage IIIB cervical carcinoma” of Yoko Harima et al. (2001): a response letter to the editor of comments from Dr. Roussakow.	<i>International journal of hyperthermia</i> 34(8):1401 2018/12	Original Article
115	Kariya S, Nakatani M, Maruyama T, et al.	放射線科	Central venous access port placement by translumbar approach using angio-CT unit in patients with superior vena cava syndrome.	<i>Japanese journal of radiology</i> 36(7):450–455 2018/07	Original Article
116	Murata H, Tsuzuki T, Kido T, et al.	産科婦人科	Progesterin-induced heart and neural crest derivatives-expressed transcript 2 inhibits angiopoietin 2 via fibroblast growth factor 9 in human endometrial stromal cells.	<i>Reproductive biology</i> 19(1):14–21 2019/03	Original Article
117	Yamaguchi R, Perkins G.	麻酔科	Animal models for studying tumor microenvironment (TME) and resistance to lymphocytic infiltration.	<i>Cancer biology & therapy</i> 19(9):745–754 2018/05	Review
118	Kusunoki M, Umegaki T, Shoji T, et al.	麻酔科	Severe progressive diffuse alveolar hemorrhage in a patient with systemic lupus erythematosus.	<i>Case Reports in Critical Care</i> 2018:Article ID 9790459 2018/06	Case Report
119	Umegaki T, Kunisawa S, Nakajima Y, et al.	麻酔科	Comparison of In-hospital Outcomes Between Transcatheter and Surgical Aortic Valve Replacement in Patients with Aortic Valve Stenosis: A Retrospective Cohort Study Using Administrative Data.	<i>Journal of cardiothoracic and vascular anesthesia</i> 32(3):1281–1288 2018/06	Original Article
120	Yoshida T, Nakamoto T, Hashimoto C, et al.	麻酔科	An ultrasound-guided lateral approach for proximal sciatic nerve block: a randomized comparison with the anterior approach and a cadaveric evaluation.	<i>Regional anesthesia and pain medicine</i> 43(7):712–719 2018/10	Original Article
121	Umegaki T, Kunisawa S, Kotsuka M, et al.	麻酔科	The impact of low body mass index on postoperative outcomes in pancreatotomy patients: a retrospective analysis of Japanese administrative data.	<i>Journal of anesthesia</i> 32(4):624–631 2018/06	Original Article
122	Sumi C, Okamoto A, Tanaka H, et al.	麻酔科	Suppression of mitochondrial oxygen metabolism mediated by the transcription factor HIF-1 alleviates propofol-induced cell toxicity.	<i>Scientific reports</i> 8(1):8987 2018/06	Original Article
123	Nishimoto K, Umegaki T, Ohira S, et al.	麻酔科	Relief of cardiac tamponade by a congenital partial left-sided pericardial defect in a patient with ruptured acute type A aortic dissection: a case report.	<i>JA Clinical Reports</i> 2019(5):4 2019/01	Case Report
124	Yoshida T, Anada N, Nakajima Y	麻酔科	Residual shunt in an infant following patent ductus arteriosus ligation detected via transesophageal echocardiography monitoring during pulmonary artery banding: a case report	<i>JA Clinical Reports</i> 2019(5):18 2019/03	Case Report
125	Yamaguchi R, Lartigue L, Perkins G.	麻酔科	Targeting Mcl-1 and Other Bcl-2 Family Member Proteins in Cancer Therapy.	<i>Pharmacology & therapeutics</i> (195):13–20 2019/03	Review
126	Miyasaka C, Ishida M, Ohe C, et al.	臨床病理	Tubular adenomas with clear cell change in the colorectum: A case with four lesions and a review of the literature.	<i>Pathology international</i> 68(4):256–258 2018/04	Case Report
127	Ito H, Ishida M, Sando K, et al.	臨床病理	Metastatic salivary duct carcinoma in cardiac and pleural effusions: A case report with immunocytochemical analysis for androgen receptor and HER2.	<i>Molecular and clinical oncology</i> 10(1):78–82 2019/01	Original Article
128	Satake H, Sagawa T, Fujikawa K, et al.	がんセンター	Phase Ib study of irinotecan and ramucirumab for advanced gastric cancer previously treated with fluoropyrimidine with/without platinum and taxane.	<i>Cancer chemotherapy and pharmacology</i> 82(5):839–845 2018/11	Original Article
129	Satake H, Sunakawa Y, Miyamoto Y, et al.	がんセンター	A phase II trial of 1st-line modified-FOLFOXIRI plus bevacizumab treatment for metastatic colorectal cancer harboring RAS mutation: JACCRO CC-11	<i>Oncotarget</i> 18811 2018/4	Original Article
130	Satake H, Sunakawa Y, Miyamoto Y, et al.	がんセンター	Correction: A phase II trial of 1st-line modified-FOLFOXIRI plus bevacizumab treatment for metastatic colorectal cancer harboring RAS mutation: JACCRO CC-11.	<i>Oncotarget</i> 30023 2018/07	Original Article

小計
19件

合計
130件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること。)

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367–9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○申請書手続き及び判定の通知 ○研究の実施及び報告 ○有害事象の報告 ○健康被害に対する保障 ○実施制限及び再審査 ○公開	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切にマネジメントすることに関し必要な事項を定めることにより、本法人及び教職員等の社会的信頼を確保するとともに、もつて教育、研究及び社会への貢献を継続的かつ適切に遂行することを目的としている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回+(DVD講習会25回)
・ 研修の主な内容 倫理講習会：第7回 科学的合理性に基づく計画書の立て方	

第8回 臨床研究と個人情報保護～研究者の視点から～

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

多くの診療各科ではその所属する学会が定める専門医を目指して研修が行われますが、本院では研修の年ごとの具体的目標と研修計画が設定されています。また、研修を円滑に進捗させるため研修進捗状況の把握、評価し問題があれば改善を勧告する後期研修システムを備えています。

また、手術支援ロボット ダ・ヴィンチSiの導入など、高度かつ先進的な医療に関する研修を行っています。

平成25年4月には、本院に直結する新学舎がオープンし、最新の研究室、基本的な医療技術及び医療実践能力の向上を目的としたシミュレーションセンターや電子ジャーナルを取り入れた図書館などを備え研修を最高レベルで一貫して行える体制を整えています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	104人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
野村 昌作	血液呼吸器膠原病感染症内科	診療部長・主任教授	38年	アレルギー疾患内科またはアレルギー科、リウマチ科を含む
塩島 一郎	循環器腎内分泌代謝内科	診療部長・主任教授	33年	
岡崎 和一	消化器肝臓内科	診療部長・主任教授	41年	
福永 幹彦	心療内科	診療部長・主任教授	34年	
日下 博文	脳神経内科	診療部長・主任教授	42年	
加藤 正樹	精神神経科	診療科長・准教授	22年	
金子 一成	小児科	診療部長・主任教授	35年	
関本 貢嗣	外科	診療部長・主任教授	38年	消化器外科、乳腺外科、小児外科を含む
湊 直樹	心臓血管外科	診療部長・主任教授	38年	
村川 知弘	呼吸器外科	診療部長・主任教授	27年	
浅井 昭雄	脳神経外科	診療部長・主任教授	38年	
齋藤 貴徳	整形外科	診療部長・主任教授	36年	
長谷 公隆	リハビリテーション科	診療部長・主任教授	34年	

楠本 健司	形成外科	診療部長・主任教授	39年	
岡本 祐之	皮膚科	診療部長・主任教授	41年	
松田 公志	腎泌尿器外科	診療部長・主任教授	41年	
高橋 寛二	眼科	診療部長・主任教授	35年	
岩井 大	耳鼻咽喉科	診療部長・主任教授	36年	内分泌外科を含む
谷川 昇	放射線科	診療部長・主任教授	34年	
岡田 英孝	産婦人科	診療部長・主任教授	26年	
上林 卓彦	麻酔科	診療部長・主任教授	32年	
鳶 幸治	臨床検査医学科 ・病理診断科	診療部長・主任教授	23年	
鍬方 安行	救急医学科	診療部長・主任教授	36年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>①検体を取り扱う注意点</p> <p>②インフルエンザウイルスとその周辺情報</p> <p>③動脈硬化・糖尿病関連検査の最近の話題</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>①平成30年7月17日、②平成30年10月18日、③平成31年2月1日</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①71名、②24名、③21名</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 澤田敏
管理担当者氏名	事務部長 川村元伸、看護部長 島村里香、薬剤部長 岡崎和一

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規 則 第 二 十 二 条 の 三 第 二 項 に 掲 げ る 事 項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	各病棟
		検査所見記録	臨床検査部
		エックス線写真	病歴情報課
		紹介状	地域医療連携部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規 則 第 二 十 二 条 の 三 第 三 項 に 掲 げ る 事 項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課
		高度の医療の提供の実績	各診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	各診療科
		閲覧実績	病歴情報課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携部
	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 に 掲 げ る 事 項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	・保管部署で管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学センター	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学センター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学センター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	用度課
		監査委員会の設置状況	法人 総合企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	管理課
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人 総合企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 澤田敏
閲覧担当者氏名	管理課長 塚本雄大 医事課長 山本和彦 病歴情報課課長 石原久美子
閲覧の求めに応じる場所	1階 情報ライブラリー室
閲覧の手続の概要	・閲覧申請書を記入の上、申請窓口である管理課へ提出する。

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊦・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する基本的考え方 2. 医療安全管理対策委員会その他組織に関する基本的事項 3. 職員に対する医療安全管理のための研修に関する基本方針 4. 医療事故報告等の安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本的事項 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む） 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のため必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（㊦・無） ・ 開催状況：年 29 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理対策委員会（12回） 医療事故対応委員会（6回） セーフティーマネージャー委員会（11回） 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年20回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ○アレルギーについて ○院内の安全ルール ○院内の安全ルール（時間内） ○第1回災害医療研修会 ○グループワーク チームSTEPPS チーム力を高めよう！ ○第2回災害医療研修会 ○医薬品安全講演会 腎機能低下患者に対する薬物療法の注意点 ○インフォームドコンセント ○第36回臨床検査セミナー ○医療安全・感染合同研修 <ul style="list-style-type: none"> インシデント事例の具体的対策 ○外国人講師による特別講演会 Making the Case for Quality（医療の質を向上させる方策を創出する） ○医療安全大会 ○事例検討会 ○医療訴訟ガイダンス ○医薬品安全講演会 <ul style="list-style-type: none"> 変貌するがん医療 ○苦情・クレーム対応について（時間内） ○医療ガスの安全管理 ○平成30年度 医療安全活動のまとめ ○平成30年度 医療安全講習会 ○職場単位での出張研修会 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
 - 1) 電子化入力による運用をしている。第1報は全職員、第2報はセーフティーマネージャーが確認の上、入力を行う。
 - 2) 事故報告等の目的は、「個人を罰することではなく事故の再発防止に活用する事である」と定めている。
 - 3) 報告すべき事項は、療養指導・情報提供に関することからその他まで29項目であり、項目の中には、入院患者が死亡、死産した場合の死亡の事実・死亡前の状況、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったもので、院内で定めた水準以上の事象が発生した際の事実と発生前の状況などの項目も含まれている。
 - 4) 報告先は、セーフティーマネージャー、所属部門の部長を経て医療安全管理部、病院長である。
緊急を要する場合は、直接病院長へ報告し、指示を受けて対処する。
 - 5) 医療安全管理部は報告をうけて速やかに内容を把握し、当該のセーフティーマネージャーと分析し、対策を講じる。
 - 6) 適切な報告のための職員への指導や研修
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) 死亡・死産報告の義務化と合併症報告の対象の一部基準化
 - 2) 医療安全管理マニュアルの年1回の改訂
 - 3) 計画的な医療安全講習の実施。受講内容の理解度を測る確認テストを兼ねたアンケートの実施
 - 4) 技術研修(超音波装置を使用しての中心静脈穿刺)
 - 5) 新入職者、中途入職者への医療安全に関するオリエンテーション
 - 6) 医療事故防止策は、セーフティーマネージャーが中心となり、時系列と必要に応じてRCA分析を行い、背景要因を明らかにすることから立案を行う
 - 7) 事例から検討された医療の安全確保のための方策の職員への周知と周知状況の確認
 - 8) セーフティーマネージャー会への研修医の出席
 - 9) 毎月、部署やセーフティーマネージャー委員へ医療安全の情報を広報するマンスリーレポートの配布。
 - 10) 医療安全管理部のHPによる広報活動

<安全ラウンド>

- 1) テーマに沿ったセーフティーマネージャー委員を交えた院内ラウンド
- 2) 医療事故発生時、発生部署、関連部署への間取り
- 3) 日本私立医科大学協会による他の私立医科大学との相互ラウンド

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> I 医療関連感染対策に関する基本的な考え II 感染対策委員会の設置 III 病院感染対策マニュアル IV 感染症の報告 V 医療関連感染発生時の対応 VI 職員研修の基本方針 VII 患者への指針の公開 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○MRSAおよび多剤耐性菌の検出状況把握と対策 ○抗菌薬の使用状況調査と感受性の推移調査 ○抗菌薬使用報告書、TDM等の抗菌薬適正使用状況調査 ○院内感染発生時の対応、対策 ○感染対策研修会の企画および開催 ○院内ラウンドサーベイランスの実施 ○血液培養陽性症例ラウンドの実施 ○針刺事故の発生状況と事故防止対策の検討 ○感染防止対策地域連携合同カンファレンスでの報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年10回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ○抗菌薬適正使用の活動 ○病院職員として知っておくべき感染対策 ○ワクチンで予防できる感染症 ○針刺し血液曝露の傾向と対策 ○当院の感染対策活動の7年間の推移 ○当院のアンチバイオグラムについて ○PK/PD理論を用いた効果的な抗菌薬投与方法 ○ICTラウンド報告 ○VREアウトブレイク事例報告 ○適正な細菌検体の採取 ○抗MRSA薬のTDM ○冬季に流行する感染症対策 ○デバイス関連サーベイランスデータ報告 ○クロストリジウムディフィシル感染症に対する治療薬と当院の使用状況 ○抗菌薬のおはなし ○届出抗菌薬の使用量および抗真菌薬使用量の推移 ○2018年度感染制御部活動報告—耐性菌の動向 ○2019年VREアウトブレイク事例報告 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟ラウンド (ICTラウンド) 時の監査内容のフィードバック ・ 感染対策研修会の開催、DVD上映 ・ 地域連携カンファレンスの開催 (4回/年) 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年7回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医薬品安全講演会・医療安全講習会（全職員対象）：4回</p> <p>○造影剤&NSAIDsアレルギーについて（医療安全講習会）</p> <p>○アレルギー情報の取り扱いとアナフィラキシー発生時の対応について（医療安全講習会）</p> <p>○腎機能低下患者に対する薬物療法の注意点（医薬品安全講演会）</p> <p>○新規抗がん剤の特徴と安全使用について（医薬品安全講演会）</p> <p>その他（対象者限定）：3回</p> <p>○医薬品の危険性について（新入職員対象 & 薬剤師対象）</p> <p>○研修医が間違えやすい処方オーダーについて（研修医対象）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成（☑・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>○医薬品の採用・購入</p> <p>○調剤室・病棟における医薬品の管理</p> <p>○病棟・各部門への医薬品の供給</p> <p>○外来・入院患者への医薬品使用</p> <p>○医薬品情報の収集・管理・提供</p> <p>○手術・麻酔部門における医薬品安全使用</p> <p>○救急部門・集中治療部門における医薬品安全使用</p> <p>○輸血・血液管理部門における医薬品安全使用</p> <p>○生命維持管理装置領域における医薬品安全使用</p> <p>○画像診断部門・内視鏡部門における医薬品安全使用</p> <p>○他施設との連携に関する事項</p> <p>○事故発生時の対応</p> <p>○教育・研修</p> <p>○その他</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（☑・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>（申請・承認した件数）</p> <p>○未承認：0件</p> <p>○適応外：30件（セルセプトカプセル、エンドキサン注、メソトレキセート注 など）</p> <p>○禁忌：0件</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>（新たに開始・導入した方策）</p> <p>○規制医薬品の紛失時等に標準的な対応ができるチェックリストの作成（H30.5～）</p> <p>○電子カルテにおける手書き処方箋の検索機能追加（H30.5～）</p> <p>○経口腸管洗浄剤の安全使用に向けたバス&セットの変更と職員への注意喚起（H30.7医療安全情報No.33）</p> <p>○インスリン製剤の過量投与防止に向けた職員への注意喚起（H30.10医療安全情報No.34）</p> <p>○医薬品の類似名称に関する職員への注意喚起（H30.10）</p> <p>○抗がん剤の累積投与量チェックシステムの開発と運用開始（H31.2～）</p> <p>○電子カルテへのウィルス肝炎対策プログラムの導入（H31.2～）</p>	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年185回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○特定品目(人工心肺、人工呼吸器、除細動器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線装置)に関する取扱い説明、インシデント事案を含めた研修</p> <p>○新規購入に伴う取扱い研修実施</p> <p>○新人研修医、看護師に対するシリンジ、輸液ポンプ使用説明実施</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>○放射線関連装置は放射線治療部において、その他の特定医療機器については医用工学センターが保守点検計画書を作成し、それに基づき定期点検を実施、点検記録簿を作成している。</p> <p>特定品目以外では電気メス、シリンジ、輸液ポンプ、ペースメーカー、麻酔器、逐次型空気圧式マッサージ器等も保守点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○当院に設置(使用)や関係しているものは医用工学センター及び医療機器安全管理責任者へ書面にて報告されないようを吟味検討した上で、部署に配置している医療機器安全担当者へ書面やメールで情報発信を行っている。また、医用工学センターHP上で医療機器安全情報もUPしている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	④・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>組織分掌規則に医療安全管理責任者は、「医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する」と明記している。 また、医療安全管理責任者は副病院長ならびに医療安全管理部部長、医療安全管理対策委員会の委員長、薬剤部部長、医薬品安全管理責任者である。一方、医療機器安全管理責任者は医療安全管理対策委員会の委員であることから、医療安全管理委員会に業務を報告する。以上のような配置により、医療安全管理責任者は医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④（5名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○1ヶ月毎に薬品別使用量や金額使用量を集計した「院内医薬品使用状況一覧」を作成しており、当院での使用状況を把握している。</p> <p>○医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）を利用するなど、国内外の医薬品情報をwebより収集している。</p> <p>○医薬品安全使用に関する情報は、必要に応じて①メール配信および②セーフティーマネージャー委員会にて報告している。また、その議事録を職員全員に回覧後、議事録閲覧確認票（押印票）の回収により周知状況を把握している。</p> <p>○医薬品安全使用に関する情報は、薬剤部 薬品情報科でファイリングして整理しており、過去のメール配信記録は職員がいつでも閲覧できるようホームページ上に整理している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○調剤時に処方箋を確認し、処方薬剤が適応外又は併用禁忌等の使用方法に該当するか否かを把握している。</p> <p>○上記に該当する場合は薬学的知見に基づき、調剤者および監査者は、提出された文献等を参考に使用の必要性やリスク検討を加え、処方の妥当性等を確認している。</p> <p>○適応外または併用禁忌等について疑義照会した場合の照会内容は、記録した処方箋のコピーを収集して記録として綴り、医薬品安全管理責任者に毎月報告し、保管している。</p> <p>○必要に応じて、医師に適応外または併用禁忌等について指導を行うとともに、院内全体に未承認等の医薬品の使用に関して必要な情報共有を行っている。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> (所属：薬剤部, 職種：医師 1 名) (所属：薬剤部, 職種：薬剤師 3 名) (所属：医療安全管理部, 職種：薬剤師 1 名) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(<input checked="" type="radio"/>) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームドコンセントマニュアルに説明と同意に関する方針、手順を定めている。説明書や同意書の新規作成、改定文書は全て医療安全管理部門で確認している。実施状況は医療説明等管理責任者ならびに医療安全管理部が中心となって確認している。インフォームドコンセントに関する職員研修を年間計画に組み込み行っている。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(<input checked="" type="radio"/>) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療録等の適切な管理を行うために診療録等の記載内容の確認に関すること ○ 診療録等の診療録内容等の定期的な確認に関すること ○ 必要の応じて行う指導に関すること ○ 診療録の記載が十分でない事例などの各部署への通知および研修に関すること 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(<input checked="" type="radio"/>) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従 (6) 名、専任 (1) 名、兼任 (9) 名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (2) 名 うち薬剤師：専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (1) 名 うち看護師：専従 (1) 名、専任 (1) 名、兼任 (1) 名 (注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療安全管理対策委員会、医療事故対応委員会、セーフティーマネージャー委員会等医療安全部門の各委員会の運営と庶務に関すること。 ○ 医療事故や医療安全管理部が取り扱う事象が発生した場合における診療録の記録の確認、患者及び 	

家族への説明、発生原因の究明と対応状況の確認、事象の内容から派生した事項の職員への必要な指導

○医療に係る安全管理の連絡調整、医療安全の確保のための対策の推進、医療安全の確保に資する診療状況の把握と職員への安全意識向上の取組みとモニタリング

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数(1件)、及び許可件数(1件)
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(・無)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(・無)

・活動の主な内容:

高難度新規医療技術評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。

当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書(様式第2号)により通知すること。

当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。

高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行うこと。

高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び高難度規程に定める事項の従業者の遵守状況を確認した時に、その内容について病院長に報告すること。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(・無)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無(・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(0件)、及び許可件数(0件)
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無(・無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬

品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・無)

・活動の主な内容：

- 未承認新規医薬品・医療機器等評価委員会に対して当該未承認新規医薬品・医療機器等の適否、使用条件等について意見を求めること。
- 当該未承認新規医薬品・医療機器等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書により通知すること。
- 当該未承認新規医薬品・医療機器等を用いた医療が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
- 未承認新規医薬品・医療機器等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうか、従業員の遵守状況の確認を行うこと。
- 未承認新規医薬品・医療機器等の使用の適否、使用条件等について決定した時及び未承認規程に定める事項の従業員の遵守状況を確認した時に、その内容について病院長に報告すること。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 669 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 42 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡・死産報告と合併症報告の義務化について医療安全研修を通じて全職員へ入力方法等もふまえて研修を実施している。

電子カルテのトップページに入力についての情報を掲載している。セーフティマネージャー委員会での周知、マンスリーレポートでの周知を実施している。

院内で発生した死亡情報を確認し、インシデントレポート報告がされていない診療科等には報告するよう督促を行うなど活動をしている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り ((病院名：北里大学病院) ・無)

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：北里大学病院) ・無)

・技術的助言の実施状況

・画像診断の未読対策システムの導入：早期導入について作業を加速します。

・診療科科長と医療安全管理部門との関わりの明確化：規程などの整備や研修について取り組みます。

・モニターアラームコントロールチームの立ち上げ：プロジェクトを形成しました。

・「医薬品の安全使用のための業務手順書」の第三者確認：医薬品安全管理担当者（薬剤師）による第三者評価を新たに導入しました。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口の趣旨、設置場所、担当者と責任者、対応時間等は院内に掲示されており、患者窓口運用規程によって定められている。また相談者が不利益を受けないよう配慮し個室にて相談に応じている。相談内容によってはインシデントレポートによる報告が行われ、一部内容は医療安全管理対策委員会にも報告されて、対応を要する事項については委員会にて対策について検討している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

職種横断的な内容になるよう配慮し、事例等を中心にテーマを決めて年間スケジュールを計画の上実施している。職員間の連携や高度な医療を提供できるように必要な技能や知識を盛り込んだ内容を実施している。

- インフォームドコンセント
- 診療のルール・インシデント報告のルール等
- チーム STEPPS
- 薬剤アレルギーについて
- インシデント事例の具体的対策
- 院内敗血症事例の振り返り
- 特定機能病院のガバナンスに関する改正事項研修会

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】

- 平成 30 年度医療安全に関するセミナー (H30. 11. 21)
- 平成 30 年度特定機能病院管理者研修 (H31. 1. 21～22)

【医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者】

- 平成 30 年度医療安全に関するセミナー (H30. 11. 21)
- 平成 30 年度特定機能病院管理者研修 (H31. 1. 21～22)

【医療機器安全管理責任者】

- 平成 30 年度特定機能病院管理者研修 (H31. 2. 6)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 心身ともに健全にして人格高潔である医師 2. 医療安全確保のために必要な資質、能力を有している者 3. 病院の管理運営のために必要な資質、能力を有している者 4. 関西医科大学附属病院における病院理念、基本方針、医療倫理指針を理解し、遂行することができる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 ホームページ
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 ホームページ 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
神崎秀陽	学校法人関西医科大学 常務理事	○	常任理事会から選出された理事	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
友田幸一	関西医科大学 学長		学長	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
岡崎和一	関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科 診療部長		附属病院部長会から選出された 診療部長	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
藤本良知	一般社団法人枚方市医師会 会長		理事長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
川添堯彬	学校法人大阪歯科大学 理事長		理事長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 病院の運営方針に関すること</p> <p>(2) 病院の経営管理に関すること</p> <p>(3) 中期計画及び事業計画に関すること</p> <p>(4) 医療機能に関すること</p> <p>(5) 組織に関すること</p> <p>(6) 人事に関すること</p> <p>(7) 施設整備に関すること</p> <p>(8) 予算及び決算に関すること</p> <p>(9) 高難度新規医療技術の実施に関すること</p> <p>(10) 未承認の医薬品等の使用に関すること</p> <p>(11) 職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制の整備に関すること</p> <p>(12) その他、病院の運営全般に関すること</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>毎月1回(毎月第4火曜日午後4時から)開催の附属病院部科長会に報告し了承を得たうえで、職員に周知しています。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無(有・<input checked="" type="radio"/>)</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無(有・<input checked="" type="radio"/>)</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
澤田 敏	○	医師	病院長
岡崎 和一		医師	副病院長
松田 公志		医師	副病院長
谷川 昇		医師	副病院長
川村 元伸		事務	事務部長
島村 里香		看護師	看護部長
村中 達也		薬剤師	薬剤部副部長
仲野 俊成		医師	医療情報部副部長
杉上 弘之		事務	事務部次長
藤原 宏司		事務	事務部次長
山本 和彦		事務	医事課長
川江 寛信		事務	医事課長
森本 圭祐		事務	診療情報分析室課長
大西 良和		事務	用度課長
塚本 雄大		事務	管理課長
木村 藍		事務	管理課係長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
 - 病院管理者として必要な人事及び予算執行権限について規定している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副院長：医療安全に関すること
 - 副院長：用度、広報、診療情報分析に関すること
 - 副院長：地域連携、栄養管理に関すること
 - 事務部長：経営分析に関すること
 - 看護部長：看護に関すること
 - 薬剤部副部長：薬剤に関すること
 - 医療情報部副部長：医療情報に関すること

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

- <事務部長>
- ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の病院事務部長会議
- <看護部長>
- ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の看護部長会議
- <薬剤部副部長>
- ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の薬剤部長会議
- <医事課長>
- ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の医療事務研究会
- <管理課長>
- ・ 社団法人日本私立医科大学協会主催の病院庶務研究会

なお、院内においては月1回経営会議を開催し、各科の診療成績や予算に対する収支状況について情報共有を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無
<p>・監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>(1) 附属病院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について管理者から報告</p> <p>(2) (1)の報告内容に関して是正措置を講ずる必要があるかどうかの意見収集</p> <p>(3) (1)、(2)の結果公表</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無(有・無)</p> <p>・委員名簿の公表の有無(有・無)</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無(有・無)</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無(有・無)</p> <p>・公表の方法：</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤本 良知	枚方市医師会 会長	○	地域医療に関する 学識経験者	有・無	1
森田 眞照	市立ひらかた病院 病院長		病院機能に関する 学識経験者	有・無	1
永井 仁美	富田林保健所 所長		公衆衛生に関する 学識経験者	有・無	1
吉野 敬昌	枚方信用金庫 理事長		医療を受ける側の 代表者	有・無	2
谷川 昇	関西医科大学医学 部放射線科学講座 教授		医療に関する 学識経験者	有・無	1
蔦 幸治	関西医科大学臨床 病理学講座教授		臨床病理に 関する学識経験者	有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

通常は年4回のテーマを決めた内部監査を行っています。また、内部通報窓口となっているため、管理者の業務に関する通報があれば、対応できる体制になっています。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 常任理事会で審議した内容を理事会へ報告し、理事会では問題の有無を理事である管理者にも確認し、監督しています。 ・ 会議体の実施状況（ 年6回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ）（ 年6回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 周知の方法 <p>○職員更衣室の前に学内意見箱を設置し、案内を常時掲示しています。</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
○国際標準化機構 (ISO15189) 平成25年8月15日認定 ※臨床検査部内のみ	
○日本医療機能評価機構認定病院 平成30年4月6日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
【発信方法】 当院ホームページ	
【内容の概要】 医療圏における基幹病院の一つとして最先端医療、高度医療をおこなっており、患者さんが安心できる安全で最新の医療の提供に努め、全ての人に平等で開かれた大学病院としての社会的責務を果たしている。	
また、災害拠点病院・がん診療連携拠点病院・高度救命救急センターの指定を受けており、診療の多様化にも対応し、広く地域医療機関との連携を図り医療圏全体の充実に貢献している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
センター化を推進し、診療科や部門との枠組みを超えてチーム医療を実施している。	
○がんセンター：化学療法部門と緩和ケア部門を担当しており、関連する診療科で協力し、より効率的で質の高いがん治療を提供している。	
○ハートセンター：循環器内科・心臓血管外科が連携して循環器疾患の治療に当たっている。	

○内視鏡センター：消化器肝臓内科、消化管外科、呼吸器内科、呼吸器外科および関連診療科が協力して、消化器及び呼吸器に関連する内視鏡治療を積極的に行っている。

○脳卒中センター：脳神経外科、神経内科、救急医学科、リハビリテーション科及び関連診療科が協力して超急性期に対する最新かつ質の高い脳卒中治療を提供している。

○腎センター；腎臓内科、腎泌尿器外科、糖尿病科の医師以外に健康科学センター、看護師、管理栄養士、薬剤師が連携し、「全人的」な診療や支援を提供している。